

①

ハコベ

繁縷はこべ

ナデシコ科

七草ハコベの七つの秘密

せり なづな ごぎょう はこべら ほとけのざ すずな すずしろ これぞ七草

左大臣・四辻善成よつじよしなりの歌で有名な春の七草である。ここで詠まれた「はこべら」は道端や畑でよく見かけるハコベのことである。

七草以外にも「七」にまつわる言葉は多い。七不思議、七つ道具、七転び八起き、ななくて七癖。七つの子や七人の小人、七匹の子ヤギ、七人の侍なんてのもある。ラッキーセラン7にあやかっセランて、ここではハコベの七つの秘密をあげてみることにしよう。

「はこべら」の語源は「はびこる」だという説もあるくらいハコベはよく増える。ハコベは漢字では「繁縷はこべ」。これもよく繁るという意味である。ハコベの七つの秘密。その二つ目は生長のしかたにある。

植物の生長には、茎の先端に花が咲いて、茎の生長が止まってしまう有限生長と、花が茎の途中に咲き、花が咲いた後も茎を伸ばしていく無限生長とがある。ハコベは有限

生長なので、花が終わるとそこで生長が止まってしまふ。ところが、ハコベは先端に花をつけるのと花の下から両側に二本の分枝を出して伸びていく。この分枝が伸びてふたたび先端に花をつけると、またその下側から二本の分枝を出す。こうしてハコベはつぎつぎに分枝を出しながら倍々に枝の数を増やしていく。

二番目の秘密も茎にある。茎の片側には細かい毛が根元方向に向かって無数に生えている。むだ毛の処理に苦労している方もいるだろうが、本来、人間の毛には体を保護する重要な役割がある。もちろん、ハコベの毛もむだ毛ではなく重要な役割を担っている。ハコベが繁る冬場は雨が少ない。そこでこの細かい毛が繁った植物体についた水滴を根元に運ぶのである。限られた水分を巧みに利用しているから、ハコベは冬でも青々とみずみずしいのだ。

茎にはもう一つ秘密がある。茎をそつとちぎってひっぱると筋があらわれる。強すぎる茎は踏まれると折れてしまふ。かといって、やわらかいだけの茎はちぎれやすい。やわらかい葉のなかにかたい筋を併せ持つことで、踏みつけに対して強さを発揮する。この茎の構造が三番目の秘密である。

四番目の秘密は花にある。ハコベの花びらを数えてみると十枚あるように見える。しかし、実際にはその半分の五枚しかない。これは一枚の花びらが根元でウサギの耳のよ



うに二つに分かれて、あたかも二枚あるかのように見せているのだ。花が咲くのは虫を呼び、花粉を運んでもらうためである。虫に気づいてもらうためには目立つことが必要だ。だから、花びらの数を二倍に見せているのである。

とはいえ、虫が訪れないこともある。受粉することなく花がついにその寿命を終わるときに奥の手がある。夕方、花が閉じるときに、雄しべが中央の雌しべに集まって、花粉を自分の雌しべにつけてしまう。こうして虫がいなくても受粉して種子を残してしまうのである。これが五番目の秘密である。虫が来ない雨の日には、花が閉じたまま自家受粉してしまうことさえある。

花が咲き終わった後には六番目の秘密がある。ハコベの花が咲くときは、虫が目立つように上向きだが、花が咲き終わると下向きに垂れ下がる。これは種子が熟すまでの間、風雨を避けるためである。さらに咲き終わった花が下を向くことで、まだ受粉していない他の花を目立たせて、虫に効率よく受粉させる効果もある。下を向いた花は、やがて種子を落とすところになると、少しでも種子を遠くへ散布するためにふたたび茎を持ち上げて上向きになる。植物には動かないイメージがあるが、ハコベはこれだけダイナミックな上下運動を人知れず行なっているのである。

最後の七番目の秘密は種子にある。種子を虫眼鏡でよく見ると、表面には突起がいつ

5

ばいつていることに気がつくだろう。この突起が土に食い込むので、ハコベの種子は土と一緒に靴の裏などについて遠くへ運ばれていくのである。オナモミやセンダングサの種子のような衣服につく「ひつつき虫」には気がつく人も多いだろうが、まさか靴底でハコベの種子を運んでいるとは思ってもよらないだろう。

道端や畑など、ハコベはどこにでも生えているありふれた雑草である。この小さな花に目を向ける人は少ない。しかし、そんなありふれた雑草であっても、これだけの工夫に満ちた秘密を巧みに使いながら生きているのだ。

ハコベの学名「ステラリア」は、星（スター）に由来する。ハコベの小さな花を星に見立てたのである。豪華絢爛な花がたくさんあるなかで、古人は野に咲くこの小さな花をスターと名づけた。

人も雑草も本当に偉大なスターは、ごく身近に存在するものなのだろう。

## 繁縷/繁萋[ハコベ/ハコベラ]

別名：雛草[ヒヨコグサ]、雀草[スズメグサ]、朝白げ[アサシラゲ]、日出草ナデシコ科ハコベ属の越年草。

三月頃から九月頃まで咲き続けます。

辺りに普通に生えている野草。

柔らかくてふかふかした茂みを作り、5～7mm程度の白くて小さな花を、散りばめた星のように咲かせます。とても可愛い。

これを見ると、春になったなあ～と感じます。

学名「*Stellaria media*」は、ラテン語で「中くらいの星」と言う意味です。

「ひよこ草」の名でも知られますが、まさにニワトリまっしぐら。英語でも「chickweed(ニワトリ草)」と言います。

ニワトリだけでなく人間も、古来からこの柔らかかみずみずしい栄養豊富な草を食べてきました。

春の七草のひとつとして挙げられています。

花弁は実は五枚。しかし基部まで真っ二つに裂けているので、あたかも十枚のように見えます。

よ～く目を凝らせば、二つずつまとまったV型の花弁が五枚ある、ように見えるでしょうか。

名の由来は、「生い茂る草むら」という意味の「蔓延芽叢[ハビコリメムラ]」の転訛という説や、種が落ちるとその年のうちに芽が出て蔓延[はびこ]るから「ハコベ」だ、という説などがあります。

## はこべ(繁縷)

ナデシコ科、ハコベ属の一～二年草

学名 *Stellaria neglecta*



別名 ひよこぐさ、はこべら、はるな、みどりはこべ

◎採取時期 冬～春(日向)、夏(日陰)。

◎採取場所 道端、畑、空き地。

◎花期 3月～9月。

◎利用部 若葉、茎、花芽。

・全国いたる所に生える越年草。寒冷地では一年草。全草にフラボノイドを含有していて、たんぱく質も多い。

・春の七草の一つで七草粥に入れたり、小鳥の餌としておなじみの、はこべらの事。柔らかそうな茎先だけ摘む。

・はこべより大きい、「うしはこべ」も同様に食べられる。



「天ぷら」



「お浸し」

・春の七草は「せり」「なずな」「おぎょう」「はこべら」「ほとけのぎ」「すずな」「すずしろ」。

◎食べ方 和えもの、汁の実、天ぷら、炒めもの、七草粥。和えもの、汁の実には、塩水で茹で、水にさらし青臭さを抜く。







## 〈基本データ〉

**花名** 繁縷

**科名** ナデシコ

**属名** ハコベ

**学名** *Stellaria media*

**分布** 北海道から沖縄にかけて分布。海外では、世界の寒帯から熱帯にかけて広く分布。

**生育地** 田畑や畦道、道端、荒地など

**植物のタイプ** 多年草

**大きさ・高さ** 10～20センチ

**花の特徴** 茎のつけ根に花径4～6ミリの小さな白い五弁花をつける。細い花びらが10枚あるように見えるが、これは5枚の花びらがそれぞれ2つに深く裂けているためである。

**葉の特徴** 葉は互い違いに生え（互生）、卵円形をしていて先は尖っている。

**実の特徴** 花の後にできる実はさく果（熟すると下部が裂け、種子が散布される果実）である。

**この花について** 属名の *Stellaria* はラテン語の「stella（星）」にちなむ。花の形が星形をしていることから名づけられた。種小名の *media* は「草原の」という意味である。

**その他** 春の七草の一つで、葉を小鳥や兎のえさなどにする。別名を小繁縷（コハコベ）という。炒った粉に塩をまぜると、よい八ミガキ粉になるという。俳句の季語は春である。

## ■似たのものとの区別・見分け方

多摩丘陵では、似たものとして次の7種が確認できています。  
○5枚の花弁が2深裂していて、花弁が10枚に見えるハコベの仲間(ハコベ属)やウシハコベ

・コハコベ(ハコベ)とミドリハコベはよく似ていますが、一般的には、コハコベの茎は紫色を帯びているのに対して、ミドリハコベは茎が緑色を帯びていることで区別します。植物学的には、種子の突起の形態で同定します。コハコベ(ハコベ)では種子の突起は半球形ですが、ミドリハコベでは種子の突起は円錐状です。

・ミノフスマもコハコベやミドリハコベに似ていますが、コハコベやミドリハコベでは葉は長さ2cmほどであるのに対して、長さ8mmほどの小さい葉が多く、何よりも花弁がガク片よりも明らかに長く、上から見るとガク片が目立たないことで区別できます。また、他の種類とは異なり、どちらかという湿性の高い場所に生育します。

・ウシハコベは、コハコベやミドリハコベでは葉はせいぜい長さ2cmほどであるのに対して、葉が長さ8cmにも及ぶものがあり、全体に大型なことで容易に区別できます。また、他のハコベの仲間ではメシベは3裂していますが、ウシハコベでは5裂していることもよい区別点です。植物学的には、ハコベ属ではなく、近縁のウシハコベ属として独立させることが普通です。

○5枚の花弁が2浅裂していて、花弁の先がハート型になるミミナグサの仲間

・オランダミミナグサでは花茎が極端に短く、茎の先にいくつかの花が密についています。また、全体に毛が多いのが目立ちます。

・ミミナグサでは、花茎の長さが5~15mmで、明らかな花茎があるように見え、また、花の数もややまばらで、オランダミミナグサのように密にはつきません。

○5枚の花弁の先は鈍三角形状で裂開しないノミナツヅリ(ノミナツヅリ属)

・ノミナツヅリの葉は、長さ3~7mmと、ミノフスマ同様に小さい点では似ていますが、花弁の先が裂開しないことで、容易に区別できます。